

平成 26 年 6 月 13 日現在

機関番号：13201

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320094

研究課題名(和文) 東アジア漢文訓読史モデルに関する実証的研究

研究課題名(英文) Empirical research on a historical model of vernacular reading for Classical Chinese texts in East Asia

研究代表者

小助川 貞次 (KOSUKEGAWA, Teiji)

富山大学・人文学部・教授

研究者番号：20201486

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,600,000円、(間接経費) 3,780,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、東アジアの各言語における漢文訓読の現象について、それぞれの展開と関係が容易に理解できるような仕組みの構築を試みた。その結果、中国語、ベトナム語、朝鮮語、日本語における加點の種類とその関係について解明することができ、また中国語文献(敦煌文献)における破音(=派生義を原義から区別するための方法)の一覧を抽出することができた。さらに、これらの研究内容について、国内外の学会・ワークショップ等で発表し、国際的な理解の獲得に努めた。

研究成果の概要(英文)：On the phenomenon of vernacular reading for Classical Chinese texts in each language of East Asia, we attempted to build a mechanism, such as can be easily understood its relationship and development of each. As a result, we elucidated about the relationship between the type of glosses in Chinese, Vietnamese, Korean, and Japanese. Further, we extracted a list of Poyin (how to distinguish it from the original meaning derived righteousness) in Classical Chinese texts (Dunhuang manuscripts). In addition, for research of these, we made some presentations at conferences and workshops in Japan and abroad, made efforts to acquire international understanding.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：漢文訓読史 東アジア 漢文訓読資料 訓点資料 実証可能モデル 加點

1. 研究開始当初の背景

漢文訓読が日本以外の東アジア世界でも行われていたことは、1960年代後半から知られており、特に2000年に韓国で発見されたヲコト点資料(点吐口訣資料)は、漢文訓読の国際的研究を飛躍的に発展させる大きな契機となった。漢文訓読資料の存在が確認されている言語は、日本語、朝鮮語、中国語、ベトナム語であり、漢文訓読に関する国際的共同研究や国際会議が日本と韓国で頻繁に開催され、欧米の研究者も関心を寄せながら研究成果の学術的交流が急速に進展している。しかし、これまでの研究は、個別言語における訓読事象の解明と、二言語間(日本語-朝鮮語、日本語-中国語)での影響関係の解明に関するものであり、東アジア全体を視野に入れて、各言語で訓読がどのように発生し、隣接する言語とどのように関係し展開していったのかという点については十分な解明が進んでいない。これはひとつには、多くの研究者の関心が国内指向であって海外に向いていないという事情がある。これまでの漢文訓読研究は、日本人研究者が日本国内に現存する日本語訓読資料を対象としたもので、日本語学上の成果に加え、隣接する日本文学、日本漢文学、日本史学などにも多くの成果を提供してきた。したがって、ごく一部の研究者を除けば研究視点を海外に向けた必要性が発生しなかったのである。さらに、東アジアの漢文訓読に関する資料情報が研究者間で共有されていなかったことも、研究者の視点が海外に向かわなかった理由と考えられる。また、東アジア全体を鳥瞰するためのモデルや理論的考察が欠如していたことも挙げられる。それぞれの言語における漢文訓読資料は、すべて原漢文に直接「加点」という方法をとっている。なぜ翻訳という方法を採用しなかったのか、またどのような加点が共通し、どのような加点が個別言語特有なのか、それは各言語の構造とどのように関係するのか。従来の研究では、個別言語の訓読資料は詳細に研究されながら、このような「訓読とは何か」という根源的な問題について取り上げられることがなかった。

2. 研究の目的

本研究は、漢文訓読史に関して構築された理論的仮説「東アジア漢文訓読史モデル」に、東アジア諸言語による漢文訓読資料の分析結果を書誌情報・画像情報とともに埋め込み、東アジアにおける漢文訓読の展開が学術的に視認・追試できるような実証可能なモデルとして再提示しようとするものである。

3. 研究の方法

資料整理と実証可能な新モデルの構築を中心とする。資料整理は、紙媒体で蓄積された書誌情報の電子テキスト化と加点内容の分析からなり、新モデルの構築は、画像デジタル技術をもつ専門的技術者の協力を求め、典

型的資料の画像処理、新モデルの考案とそれを動かすためのシステムの設計を行う。最終年度には、国内外の研究者をメンバーとする国際ワークショップを開き、新モデルの検証を行う。なお本研究で扱う漢文訓読資料の大半はすでに実地調査済であるが、漢文訓読資料は過去の実地調査だけでは、その全貌を把握することが困難な資料であることが多いので、国内外の再調査・補充調査を積極的に行う。

4. 研究成果

(1) 資料整理

敦煌加点本については、大英図書館、フランス国立図書館で実地調査を行なうとともにIDP及びGallicaから画像データの入手を行い、最終的に敦煌加点本データベースとして、大英図書館スタイン文献89件、フランス国立図書館ペリオ文献146件の整理を行った。韓国資料については、国内外に現存する朝鮮版漢文資料について書誌情報500件の入力作業を行った。ベトナム資料については、NLV(Works from the National Library of Vietnam)で公開されているデジタル画像を利用して加点の概要を把握した。日本国内資料については、京都国立博物館、東京国立博物館、東洋文庫、宮内庁書陵部、国立公文書館等に所蔵される仏書訓点資料・漢籍訓点資料について主に韓国研究者と共同で調査を行ない、漢文訓読に関する双方の理解を深めた。そのほか、台湾国家図書館で漢籍訓点資料の調査を行なうとともに画像資料の共有について議論を行い、また漢文古写本の字体比較研究として中国西安碑林博物館で開成石経の調査を行った。以上の調査を通して、研究資料の補充と新たな知見の獲得をすることができた。

(2) 加点内容の分析と各言語での比較検討

敦煌加点本については、破音を中心に加点内容の分析を行い、スタインコレクション32文献、ペリオコレクション61文献から後掲の破音一覧(376字種)を抽出した。韓国資料については、韓国崇実大学校で韓国における漢文訓読研究の現状調査を行なうとともに、日本の論語訓点資料を韓国で初めて紹介した呉美寧・漢文訓読研究会編『日本論語訓点本の解読と翻訳』(崇実大学校出版部、2014年)の出版について学術的な助言・支援を行った。日本国内資料については、研究成果の一部を中国語で翻訳公表し、国際的な理解を得るように努めるとともに、漢字字体について敦煌文献との比較検討結果を国際シンポジウムで発表した。ベトナム資料については、朱点・朱引の機能について検討を行うとともに、ベトナム研究者を日本に招聘してベトナム訓読についての理解を深めた。以上の比較検討によって、表1に示すような言語と加点の種類との関係について解明することができた。

表1 言語と加点の種類との関係

類似性	加点の種類	中国語	ベトナム語	朝鮮語 (仏典)	日本語 (漢籍)
各言語で 共通	科段				
	句読				
	破音				
	声点				
	名詞句				
特殊 (自言語に 依存)	語順符	×	×		
	ヲコト点	×	×		
	仮名点	×	字喃	口訣	
言語の種類		孤立語		膠着語	

: 角筆点のみに認められる

【敦煌加点本(漢籍)の破音一覧】
(出現度数順、数値は文献数)

Stein 32 文献(7世紀後期~9世紀後期)

S.0010, S.0085, S.0133, S.0134, S.0541,
S.0618, S.0747, S.0799, S.0800, S.0801,
S.1393, S.1442, S.1443, S.1722, S.2053,
S.2074, S.3011B, S.3330, S.3663, S.3951,
S.5626, S.5705, S.5726, S.5743, S.5745,
S.6017, S.6120, S.6121, S.6162, S.6259,
S.6346, S.7003A

Pelliot 61 文献(7世紀中後期~9世紀中期)

P.2493, P.2496, P.2500, P.2506, P.2509,
P.2514, P.2516, P.2525, P.2528, P.2529,
P.2530, P.2532, P.2533, P.2536, P.2538,
P.2540, P.2554, P.2562, P.2616, P.2627,
P.2628, P.2630, P.2643, P.2658, P.2661,
P.2669, P.2687, P.2707, P.2715, P.2748,
P.2904, P.2973B, P.2978, P.2981, P.3015,
P.3204, P.3380, P.3467, P.3562, P.3573,
P.3602, P.3607, P.3628, P.3634, P.3635,
P.3640, P.3643, P.3670, P.3683, P.3704,
P.3729, P.3737, P.3752, P.3813, P.3871,
P.4033, P.4058, P.4874, P.5036, P.5543,
P.5557

行:38, 已:33, 日:31, 楽:27, 長:26, 見:24,
為:22, 難:22, 相:20, 悪:19, 好:19, 女:19,
将:19, 説:19, 與:19, 朝:18, 夫:18, 易:17,
度:14, 応:13, 従:13, 中:13, 卑:13, 施:11,
数:11, 比:11, 重:10, 喪:10, 亡:10, 還:9, 復:9,
劣:9, 燕:8, 共:8, 父:8, 毋:8, 王:7, 興:7, 称:7,
乘:7, 食:7, 要:7, 遠:6, 過:6, 害:6, 才:6, 使:6,
処:6, 知:6, 令:6, 於:5, 間:5, 去:5, 降:5, 治:5,
舍:5, 少:5, 畜:5, 伝:5, 道:5, 分:5, 与:5, 焉:5,
衣:4, 員:4, 下:4, 且:4, 幾:4, 差:4, 思:4, 帥:4,
卒:4, 聴:4, 適:4, 当:4, 任:4, 被:4, 聞:4, 畏:3,
遣:3, 雨:3, 夏:3, 郷:3, 近:3, 輕:3, 告:3, 上:3,
賁:3, 造:3, 属:3, 著:3, 弔:3, 陳:3, 罷:3, 風:3,
覆:3, 別:3, 予:3, 来:3, 累:3, 和:3, 曰:3, 賈:3,
賈:3, 辟:3, 引:2, 厭:2, 卸:2, 仮:2, 会:2, 解:2,
卷:2, 虚:2, 京:2, 兇:2, 句:2, 契:2, 向:2, 更:2,
号:2, 催:2, 塞:2, 祭:2, 参:2, 射:2, 趣:2, 昭:2,

衰:2, 先:2, 鮮:2, 漸:2, 族:2, 孫:2, 達:2, 弟:2,
敦:2, 南:2, 之:2, 敗:2, 莫:2, 賓:2, 奉:2, 命:2,
耶:2, 両:2, 麗:2, 亟:2, 嚮:2, 殷:2, 濟:2, 繇:2,
逢:1, 宛:1, 伊:1, 位:1, 夷:1, 委:1, 威:1, 尉:1,
慰:1, 移:1, 飲:1, 右:1, 悦:1, 延:1, 往:1, 横:1,
牡:1, 華:1, 蒲:1, 乾:1, 感:1, 觀:1, 関:1, 願:1,
喜:1, 畿:1, 貴:1, 龜:1, 技:1, 久:1, 居:1, 彊:1,
極:1, 勤:1, 均:1, 苦:1, 驅:1, 愚:1, 偶:1, 串:1,
祁:1, 系:1, 迎:1, 検:1, 県:1, 玄:1, 固:1, 狐:1,
後:1, 御:1, 瑚:1, 語:1, 誤:1, 后:1, 広:1, 合:1,
克:1, 今:1, 婚:1, 混:1, 坐:1, 昨:1, 錯:1, 殺:1,
雉:1, 刺:1, 至:1, 示:1, 辞:1, 室:1, 柴:1, 屢:1,
取:1, 樹:1, 周:1, 宗:1, 就:1, 終:1, 駿:1, 除:1,
勝:1, 升:1, 省:1, 訟:1, 丞:1, 城:1, 飾:1, 燭:1,
織:1, 触:1, 振:1, 浸:1, 尽:1, 凶:1, 政:1, 正:1,
盛:1, 青:1, 積:1, 絶:1, 占:1, 宣:1, 專:1, 踐:1,
選:1, 曾:1, 蘇:1, 走:1, 蔵:1, 其:1, 他:1, 陀:1,
大:1, 卓:1, 宅:1, 脱:1, 単:1, 嘆:1, 歎:1, 断:1,
池:1, 着:1, 仲:1, 丁:1, 徵:1, 調:1, 追:1, 定:1,
庭:1, 泥:1, 溺:1, 展:1, 殿:1, 菟:1, 土:1, 陶:1,
得:1, 徳:1, 内:1, 檣:1, 尼:1, 播:1, 糜:1, 背:1,
剥:1, 薄:1, 癸:1, 伐:1, 繁:1, 飯:1, 番:1, 匪:1,
百:1, 不:1, 扶:1, 敷:1, 封:1, 服:1, 弘:1, 糞:1,
平:1, 变:1, 放:1, 忘:1, 暴:1, 謀:1, 奔:1, 巳:1,
無:1, 孟:1, 唯:1, 有:1, 離:1, 律:1, 旅:1, 倚:1,
兌:1, 辨:1, 咎:1, 忿:1, 憚:1, 懼:1, 戮:1, 拔:1,
拯:1, 斂:1, 桴:1, 槁:1, 汨:1, 洵:1, 狄:1, 瑕:1,
齋:1, 缺:1, 耿:1, 腓:1, 藉:1, 袞:1, 襄:1, 蹙:1,
蹶:1, 辯:1, 邁:1, 閔:1, 睢:1, 雉:1, 韶:1, 飭:1,
馮:1, 驟:1, 齊:1, 僂:1, 櫛:1, 琚:1, 羿:1, 翟:1,
蕢:1, 壘:1, 逢:1, 鄆:1, 酤:1, 離:1, 鞞:1, 駘:1,
麋:1

(3) 東アジア漢文訓読史が視認・追試できる
実証可能モデルの検討・作成

東アジア漢文訓読史の理論的仮説モデル(小
助川貞次「東アジア学術交流史としての漢文
訓読」『富山大学人文学部紀要』51、2009年、
<http://www.hmt.u-toyama.ac.jp/kenkyu/kiyo51/kosukegawa51.pdf>)をたたき台にして、
情報工学、デジタル画像、プロモーション制
作に詳しい専門家等と検討を行い、東アジア
漢文訓読史が視認・追試できる実証可能モデル
の作成を目指した。検討のポイントは以下の
通り。

訓読の範囲

訓読とはそもそもどのような読書方法なの
か。読書対象の文献と同一言語で読解され
る場合(敦煌加点本)は訓読といえるのか。
また時代の下限はどこに置くのか(ベトナム
資料は18世紀以降のものが大半を占める)。

解釈の揺れる部分

乙点図の位置(天台宗学僧によって考案さ
れたのか、それとも宇多天皇自身の考案な
のか)や奈良朝写経に存在するとされる角
筆による訓点の問題

モデルに搭載する内容

加点資料はデジタルデータが利用できるの
か、加点内容のどこまでを記述するのか

動かす仕組み

技術的には可能だが相当のコストがかかる
困難な課題

所蔵権とシステムのメンテナンスの問題。
さらにどの言語で記述するのか(翻訳以前の
の問題として専門用語の定義が不安定)。

このモデルに原資料の画像を付加することは特に所蔵権の点で大きな限界があり、東アジア漢文訓読史を鳥瞰できる図表の作成にとどまった(図1。小助川貞次「東アジア漢文訓読史モデルの再構築」、第109回訓点語学会研究発表会、2013年10月20日、東京大学)。ただし、今後このモデルにデジタルデータが付加できれば東アジア漢文訓読史に対する理解や研究上の利便性は格段に進展する。

世紀	韓半島	日本		中国(敦煌加本)	周辺諸国
		仏典の世界	漢籍の世界		
6	三國時代 百濟・新羅の発生				
7	統一新羅(576-935) 高麗(918-1392)による朝鮮統一			中国の加本(現存しない)	高麗語の萌芽 (古交際書)
8	百濟による漢籍の記述 (三國史記4、三國遺事4)	奈良時代の写本が現存 → 高麗新羅で漢籍の加本が現存 → 高麗新羅(高麗文、高麗書) → 高麗文書(高麗文、高麗書) → 高麗文書(高麗文、高麗書) → 高麗文書(高麗文、高麗書)	加本資料が現存しない	高麗新羅の加本(現存しない)	高麗語の萌芽 (古交際書)
9	高麗新羅(918-1392) 新羅(高麗)の漢籍の記述	高麗新羅で漢籍の加本が現存 → 高麗新羅(高麗文、高麗書) → 高麗文書(高麗文、高麗書) → 高麗文書(高麗文、高麗書) → 高麗文書(高麗文、高麗書)	加本資料が現存しない	高麗新羅の加本(現存しない)	高麗語の萌芽 (古交際書)
10	高麗新羅(918-1392) 新羅(高麗)の漢籍の記述	高麗新羅で漢籍の加本が現存 → 高麗新羅(高麗文、高麗書) → 高麗文書(高麗文、高麗書) → 高麗文書(高麗文、高麗書) → 高麗文書(高麗文、高麗書)	加本資料が現存しない	高麗新羅の加本(現存しない)	高麗語の萌芽 (古交際書)
11	高麗新羅(918-1392) 新羅(高麗)の漢籍の記述	高麗新羅で漢籍の加本が現存 → 高麗新羅(高麗文、高麗書) → 高麗文書(高麗文、高麗書) → 高麗文書(高麗文、高麗書) → 高麗文書(高麗文、高麗書)	加本資料が現存しない	高麗新羅の加本(現存しない)	高麗語の萌芽 (古交際書)
12	高麗新羅(918-1392) 新羅(高麗)の漢籍の記述	高麗新羅で漢籍の加本が現存 → 高麗新羅(高麗文、高麗書) → 高麗文書(高麗文、高麗書) → 高麗文書(高麗文、高麗書) → 高麗文書(高麗文、高麗書)	加本資料が現存しない	高麗新羅の加本(現存しない)	高麗語の萌芽 (古交際書)
13	高麗新羅(918-1392) 新羅(高麗)の漢籍の記述	高麗新羅で漢籍の加本が現存 → 高麗新羅(高麗文、高麗書) → 高麗文書(高麗文、高麗書) → 高麗文書(高麗文、高麗書) → 高麗文書(高麗文、高麗書)	加本資料が現存しない	高麗新羅の加本(現存しない)	高麗語の萌芽 (古交際書)

図1 東アジア漢文訓読史モデル

(4) 研究情報の交流と発信

2012年7月に富山大学において国立国語研究所との共同開催セミナー「漢文訓読再発見」を行い、国内外の漢文訓読研究者に加えてオリエント文献の専門家も招き、「訓読」について国際的な観点から研究情報の交流を行った。さらに2013年6月に早稲田大学において開催された国際シンポジウム: Accessing the Cosmopolitan Code in the Sinographic Cosmopolis において「古代日本における漢籍の学習について」を発表し、漢文訓読について国際的な理解が得られるように努めた。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計5件)

Fujimoto Yukio, The Current State of Research on Catalogues of Old Korean Books, ACTA ASIATICA, 査読有, No.106, 2014, pp.45-68

藤本幸夫, 朝鮮の出版文化、東洋文化研究、査読有、第16号、2014、pp.239-250

藤本幸夫, 日本現存癸未字活字印本『纂図互註周礼』巻一・二について、東アジア金属活字印刷文化の創案と科学性、査読無、1

巻、2012、pp.211-225

FUJIMOTO Yukio, Old Korean Books Preserved in Japan, MEMOIRS OF THE RESERCH DEPARTMENT OF THE TOYO BUNKO (東洋文庫欧文紀要)、査読有、No.69、pp.1-17、2012

藤本幸夫, 古代日本語と朝鮮語、高岡市万葉歴史館叢書、査読無、24、pp.3-19、2012

[学会発表](計9件)

藤本幸夫, 日本現存朝鮮本とその研究、平成25年度日本古典籍講習会、2014年1月24日、国文学研究資料館

藤本幸夫, 朝鮮の出版文化、東洋文化講座シリーズ第81回、2013年11月15日、学習院大学

小助川貞次, 東アジア漢文訓読史モデルの再構築について、第109回訓点語学会、2013年10月20日、東京大学

藤本幸夫, 日本現存癸未字活字印本『十七史纂古今通要』巻十一・十二について、Conference on Movable Metal-type at UC Berkeley, 2013年9月28日、UC Berkeley America

小助川貞次, 古代日本における漢籍の学習、Accessing the Cosmopolitan Code in the Sinographic Cosmopolis, 2013年6月17日、早稲田大学

藤本幸夫, 朝鮮印刷文化と日本、奈良大学、2012年10月15日、奈良大学

藤本幸夫, 東洋文庫について、韓国ソウル大学奎章閣、2012年9月14日、韓国ソウル大学奎章閣

藤本幸夫, 朝鮮本の調査法について、韓国東国大学校、2012年9月7日、韓国東国大学

小助川貞次, 敦煌漢文文献(漢籍)の性格とその漢字字体、漢字字体規範史研究国際シンポジウム「字体規範と異体の歴史」、2011年12月17日、東京外国語大学

[図書](計9件)

藤本幸夫(共著)、CUON 出版社、朝鮮の出版文化(野間秀樹編『韓国・朝鮮の知を読む』)、2014、pp.540-550

呉美寧・漢文訓読研究会編(小助川貞次序文)、崇実大学出版部、日本論語訓点本の解読と翻訳(上)、2014、638

小助川貞次(共著)、上海辞書出版社、作為東アジア漢文訓読資料の敦煌加本の意義(石塚晴通編(唐煒訳)『敦煌学・日本学統編』)、2013、pp.11-126

小助川貞次(共著)、上海辞書出版社、敦煌漢文文献(漢籍)の性格と其漢字字体(石塚晴通編(唐煒訳)『敦煌学・日本学統編』)、2013、pp.127-149

小助川貞次(共著)、勉誠出版、敦煌漢文文献(漢籍)の性格とその漢字字体(石塚晴通編『漢字字体史研究』)、2012、pp.151-172

藤本幸夫（共著） 翰林書房、蓬左文庫所蔵駿河御讓本朝鮮本の「御弘」に就いて（高橋亨他編『武家の文物と源氏物語絵 尾張徳川家伝来品を起点として』）、2012、pp.116-135

（以下、刊行決定済）

藤本幸夫、麗澤大学出版会、龍龕手鏡影印とその研究、2015

藤本幸夫（共著） 韓国中央研究院、日本現存癸未字活字印本『十七史纂古今通要』巻十一・十二について（『朝鮮古活字本研究』） 2014

小助川貞次（共著） 勉誠出版、日本における十世紀加点の漢籍訓点資料の位置（藤本幸夫・千葉庄寿編『日韓漢文訓読論集』）、2014

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小助川貞次（KOSUKEGAWA, Teiji）

富山大学・人文学部・教授

研究者番号：20201486

(2) 研究分担者

藤本幸夫（FUJIMOTO, Yukio）

麗澤大学・言語研究センター・客員教授

研究者番号：70093458